

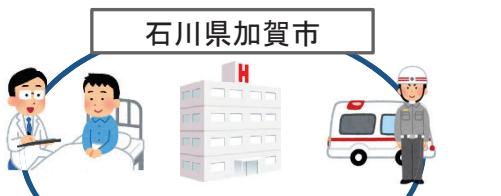
「世界で一番ビジネスがしやすい環境」の構築

- 少子化・高齢化、人手不足、過疎化など、厳しさを増す経済社会環境の中で、デジタル技術を活用し、こども・教育、医療・介護・障害者、交通・観光等、地域・社会課題を解決していくことが急務。
- 現在、健康・医療分野において、石川県加賀市・長野県茅野市・岡山県吉備中央町の3市町が連携して「デジタル田園健康特区」の取組を進めており、当該取組は、健康・医療分野での地域課題解決に貢献している。
- このため、「デジタル田園健康特区」の取組を横展開し、その成果の全国展開を進めるとともに、人手不足、過疎化が進む中、健康・医療分野以外にも地域が抱える深刻な課題に対応できるよう取り組んでいく。

### 現在の取組

#### <デジタル田園健康特区>

3自治体が連携し、デジタル技術を活用しつつ、健康・医療の課題解決に重点的に取り組む。



#### <取組>

- 救急医療等におけるタスクシフトの進展（救急救命士・看護師の役割拡大）
- 健康情報を活用した医療サービスの向上（“医療版”情報銀行）
- 地域交通手段を活用した医薬品の効率的配送等、アーキテクト（構想全体を企画する人材）の実行力により、多くのアイディアが提案され、改革を実現

健康・医療分野の課題解決に貢献

\*デジタル田園健康特区は、スーパーシティと並び、  
デジタル田園都市国家構想の「先導役」との位置づけ

### 現行の「デジタル田園健康特区」の取組を横展開

#### ①「デジタル田園健康特区」の取組で得られた成果の横展開

- ・規制の特例措置の全国展開の加速化
- ・特区の取組・実践（プラクティス）の自治体間共有（周知・フォーラムの開催、サービス導入手順書の作成等）

#### ②人手不足、過疎化が進む中、健康・医療分野以外にも地域が抱える深刻な課題に対応

⇒ 地域の暮らしを支えるサービス分野  
(例:こども・教育、介護・福祉、交通・観光)

\*デジタル技術を活用した自治体間連携による新たな特区の取組を「地域課題解決連携特区（通称：連携“絆”特区）」として発掘・支援

\*デジタル田園健康特区同様、アーキテクトを中心とした、大学等の幅広い地域関係者が連携した体制を構築

#### ③財政的支援の強化

特区における規制・制度改革を踏まえた新たな取組を後押しするため、デジ田交付金等を活用

デジタル技術を活用した  
自治体間連携の加速化

先端デジタルサービス等の活用を  
通じた地域・社会課題の解決